

農学の タベ

2025.10.2(木)~10.30(木)

毎週木曜日(全5回)18:30~19:30
山形大学農学部3号館3階301大講義室
先着70名(一般・高校生)／参加無料

【申込方法】

8月20日(水)~9月19日(金)の期間中に
下記の申込みフォームからお申込みください。

※全5回通しでのお申込みとなります。

○申込みフォーム

URL:<https://forms.office.com/r/yy2tcY0T1c>

QRコード → → →



インターネット環境等によりフォームからの申込みが難しい場合は
(山形大学農学部総務課研究・社会共創室)

TEL: 0235-28-2941 までご連絡ください。

※定員になり次第、受付終了となりますので、ご了承ください。

※予定が変更になる場合がありますので、その都度、本学部HPにてご確認ください。

※当講座の様子については写真撮影の上、各種広報誌やWeb上等に掲載することがありますので予めご了承ください。顔写真の撮影等につき特段のご要望がある場合は、担当職員にお申し出ください。

第1回 10月2日(木)
山形県庄内地方の笹巻について

江頭 宏昌

第2回 10月9日(木)
家畜と稲のつながり
サステナブルフード生産への貢献

堀口 健一

第3回 10月16日(木)
え！日本でも薬用作物を栽培している？

連 宇 (博士課程3年)

第4回 10月23日(木)
日本人とお米のキズナ

片平 光彦

第5回 10月30日(木)
作物の病害防除

長谷 修

《講義概要》

開講日	講義テーマ	講義概要	担当
第1回 10月2日 (木)	山形県庄内地方の 笹巻について	山形県庄内地方には300年前後かそれ以上の歴史を持つ笹巻という食べ物があります。その製造技術が2024年3月に国登録無形民俗文化財に指定されました。それに先立ち、笹巻の歴史、形態、作り方や食べ方などの地域間差を詳しく調べたところ、これまで知られていなかった事実が多数明らかになったので紹介します。	教授 江頭 宏昌
第2回 10月9日 (木)	家畜と稲のつながり -サステナブルフード 生産への貢献-	ウシには稲の茎葉部「藁」が、ブタやニワトリには稲の子実部「飼料米（屑米）」が、昔から利用されています。この家畜と稲のつながりは今でも続いており、持続可能なこと（サステナブル）を証明し、多くの良質な食品・畜産物（フード）を私たちに提供しています。 本講義では、家畜と稲のつながりが持続可能な豊かな食生活に貢献していることを紹介したいと思います。	教授 堀口 健一
第3回 10月16日 (木)	え！日本でも薬用作物を栽培している？	ドラッグストアの棚に並んでいるさまざまな漢方薬に気づいたことがあるでしょうか？ これらの漢方薬の原材料の約1割を日本の農家が頑張って生産しています。 本講義では身の回りにある薬用植物から、主要産地での薬用作物の栽培状況まで、分かりやすく紹介します。	学生・博士課程 連 宇 (指導教員 教授 藤科 智海)
第4回 10月23日 (木)	日本人とお米の キズナ	昨今、日本ではお米の価格が高騰しており、我々の生活でお米との関係が再注目されています。お米は日本人にとって、長年つきあってきた深いキズナがあります。 今回の講義では、お米の栽培の歴史と背景、収穫してから皆さんに届くまでの過程を紹介します。この講義をとおして、もう一度お米について考えてみませんか。	教授 片平 光彦
第5回 10月30日 (木)	作物の病害防除	「みどりの食料システム戦略」の一環として、化学農薬の使用を減らすための病害防除技術が注目されています。 この講座では、「生物防除微生物」と呼ばれる有用な微生物や、有機農業にも活用できる防除資材を例に挙げながら、防除のしくみや技術開発の現状、そして今後の課題についてご紹介します。	教授 長谷 修